

共同研究 調査・資料

■日本常民文化研究所

本研究所では所員・研究員による常民文化をテーマにしたさまざまな共同研究を展開し、歴史民俗・人類学・地理学を中心に学際的な研究を推進している。ここでは、各共同研究での調査、資料等の写真を掲載した。詳細な研究活動報告を6～29ページに掲載している。

◆共同研究 日本常民文化研究所所蔵資料からみるフィールド・サイエンスの史的展開

期間：2016年～ 代表者：泉水英計



写真1 ワークショップが開催された台湾屏東県三地門郷大社の風景 (2018年10月)



写真2 ワークショップ「パイワン学」での研究報告 (2018年10月)



写真3 研究セミナー「小林保祥の描いた台湾パイワン族の世界」平塚市美術館でのギャラリートーク (2019年2月)

◆共同研究 二神家・二神島の歴史・民俗研究
 期間：2016年～ 代表者：前田禎彦

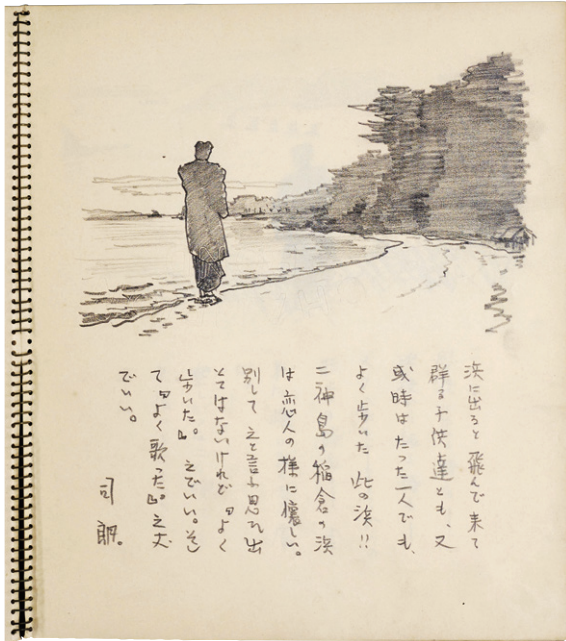


写真1 二神司郎家に残されていたスケッチブックに描かれた二神島の浜（二神司郎氏作）



写真2 二神島の浜にて採取された植物のスケッチ（二神司郎氏作）

◆共同研究 海域・海村の景観史に関する総合的研究
 期間：2015年～ 代表者：安室知

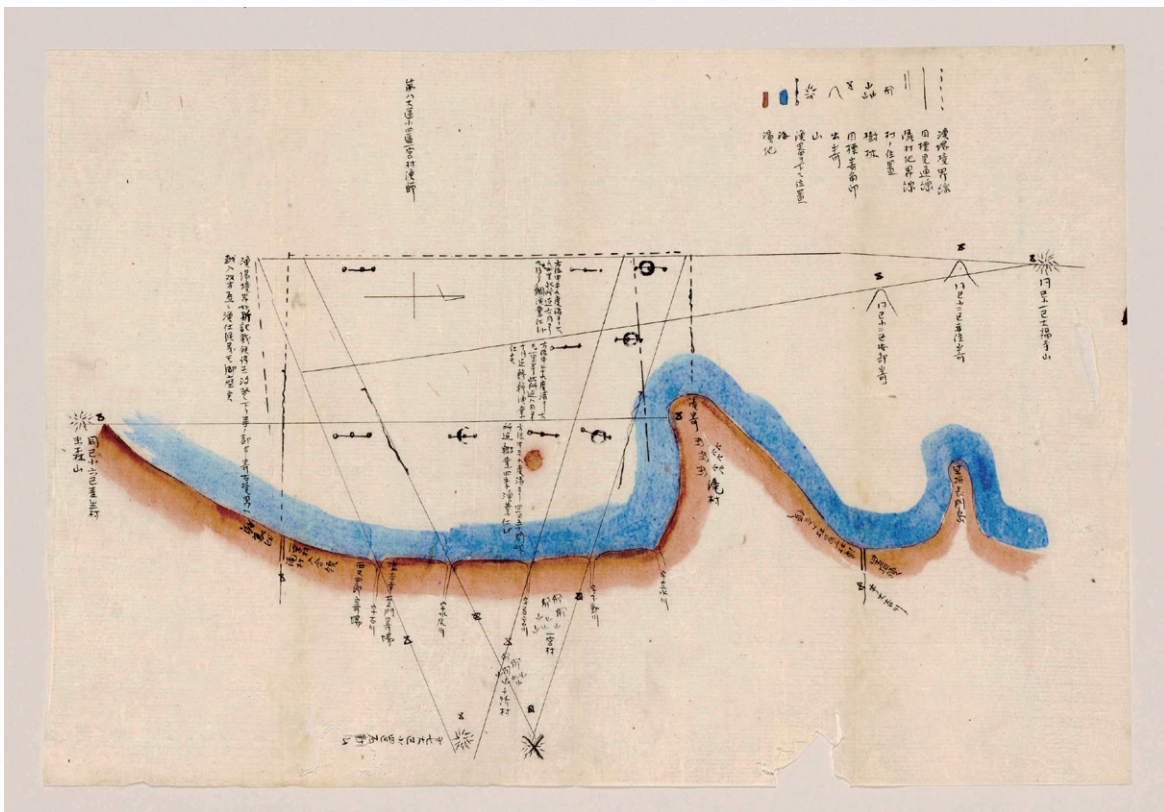


図1 旧一ノ宮村（石川県羽咋市）の漁場図（常民研蔵）

◆研究拠点 気仙沼大島漁協文庫の管理と活用
期間：2016年～ 代表者：内田青蔵



写真1 収蔵資料の修復作業（2019年1月）



写真2 資料の分類の配架位置の確認を行い、ラベルを貼付（2019年1月）

◆科研費【基盤研究（B）】ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究
期間：2015年4月1日～2019年3月31日 代表者：佐野賢治



写真1 実測調査を行ったサンパウロ州レジストロ市の深澤邸（2018年8月）



写真2 公開研究会「ブラジル日本人入植地の歴史と民俗」展示品を囲んでの議論（2018年12月）

◆受託研究 国立研究開発法人水産研究・教育機構所蔵古文書目録作成業務

期間：2018年10月11日～2019年3月15日（継続） 代表者：安室知



写真1 松宮家の近世期の資料



写真2 湯浅の御蔵町風景（伝統的建造物保存地区）

◆受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業

期間：2018年7月2日～2019年2月28日（継続） 代表者：内田青蔵



写真1 三宅島郷土資料館の調査の様子

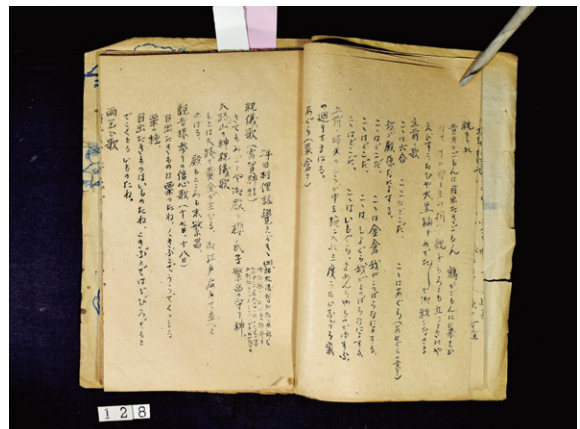


写真2 七島文庫冊子類の記録写真

◆受託研究 小西漆器店所蔵文書の整理・目録作成

期間：2018年7月12日～2019年3月25日 代表者：関口博巨



写真1 所蔵古文書の撮影（2019年3月）



写真2 クロメ大鉢（享和元（1801年）小西漆器店所蔵



写真3 時国家との関係も記録された「永代過去帖」表紙

■ 国際常民文化研究機構

国際常民文化研究機構では、毎年公募により採択されたプロジェクト型共同研究が進められている。地域の研究者を助成する目的で「共同研究（奨励）」も合わせて行っている（研究活動報告 44～55 ページ参照）。

◆ 共同研究（一般）「台湾の「海女（ハイラー）」に関する民族誌的研究

——東アジア・環太平洋地域の海女研究構築を目指して——

研究・成果報告期間：2018年4月1日～2022年3月31日 代表者：藤川美代子



写真1 海に紙銭を撒き、唱え事をする女性（澳底／沈得隆撮影。2018年8月）



写真2 旧暦5～8月は乾燥した石花菜や自家製の「石花凍（寒天）」を道端で売る（澳底／沈得隆撮影。2018年8月）

◆共同研究（一般）「民具の機能分析に関する基礎的研究」

研究・成果報告期間：2017年4月1日～2021年3月31日 代表者：神野善治



写真1 宮本八恵子氏を中心とする所沢飛白研究会の復元プロジェクトを通し、織機の一部としての棒が、指や手などのように絡むかなど確認できた（於：東大和市郷土資料館／2018年9月）



写真2 少数民族の背負い籠コレクションを調査。日本の出土遺物との類似性を指摘する山田昌久氏（於：ベトナムフエ科学大学歴史学科付属博物館／2018年10月）

◆共同研究（一般）「戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究」

研究・成果報告期間：2015年4月13日～2019年3月31日 代表者：加藤幸治



写真1 第4回共同研究フォーラム「再考 アチック・ミュージアムの水産史研究——“ハーモニクス・デヴェロップメント”の実像——」会場風景（2018年7月7日）



写真2 共同研究フォーラム後の記念撮影

◆共同研究（奨励）「熊野水軍小山家文書の総合的研究」

研究・成果報告期間：2018年4月1日～2021年3月31日 代表者：坂本亮太

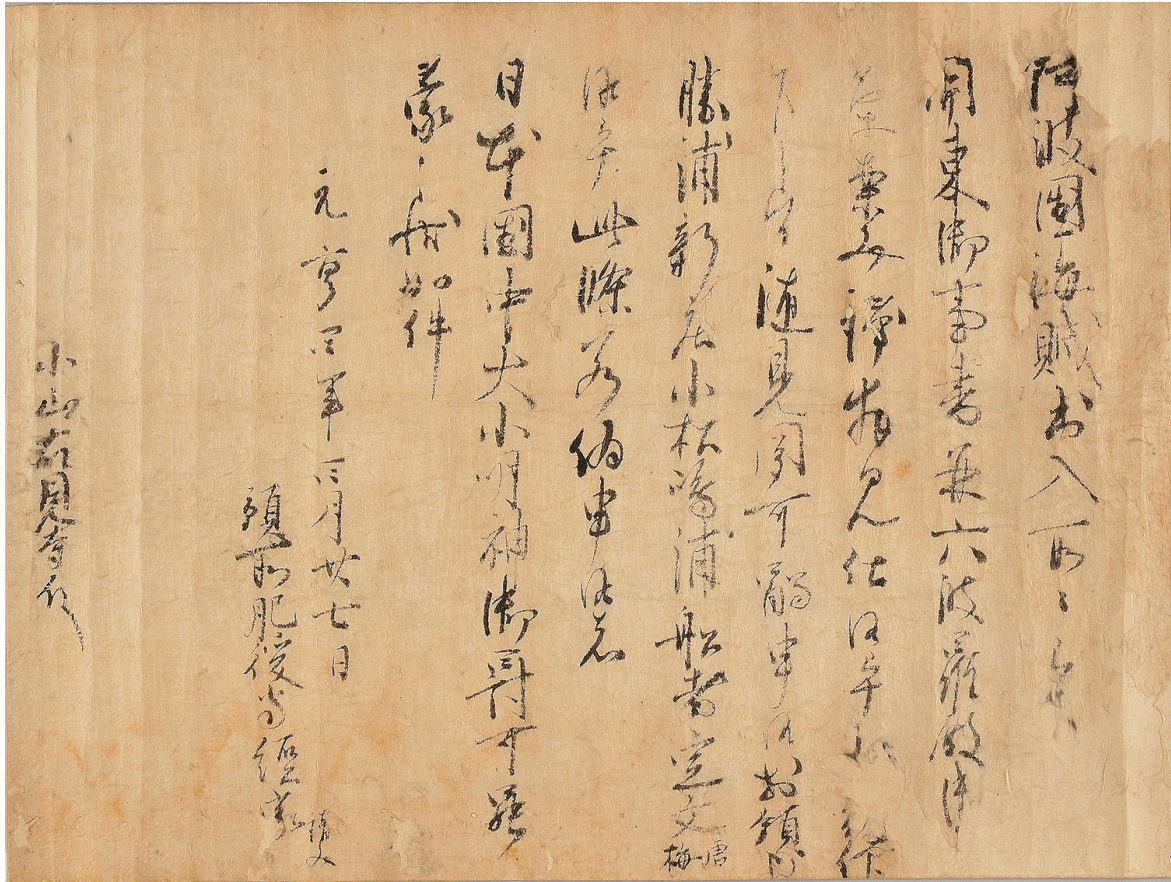


写真1 新田経家請文案（久木小山家文書）



写真2 勝山城より安宅本城を臨む

◆共同研究（奨励）「昭和戦前期の青年層における民俗学の受容・活用についての研究」
研究・成果報告期間：2017年4月1日～2020年3月31日 代表者：丸山泰明

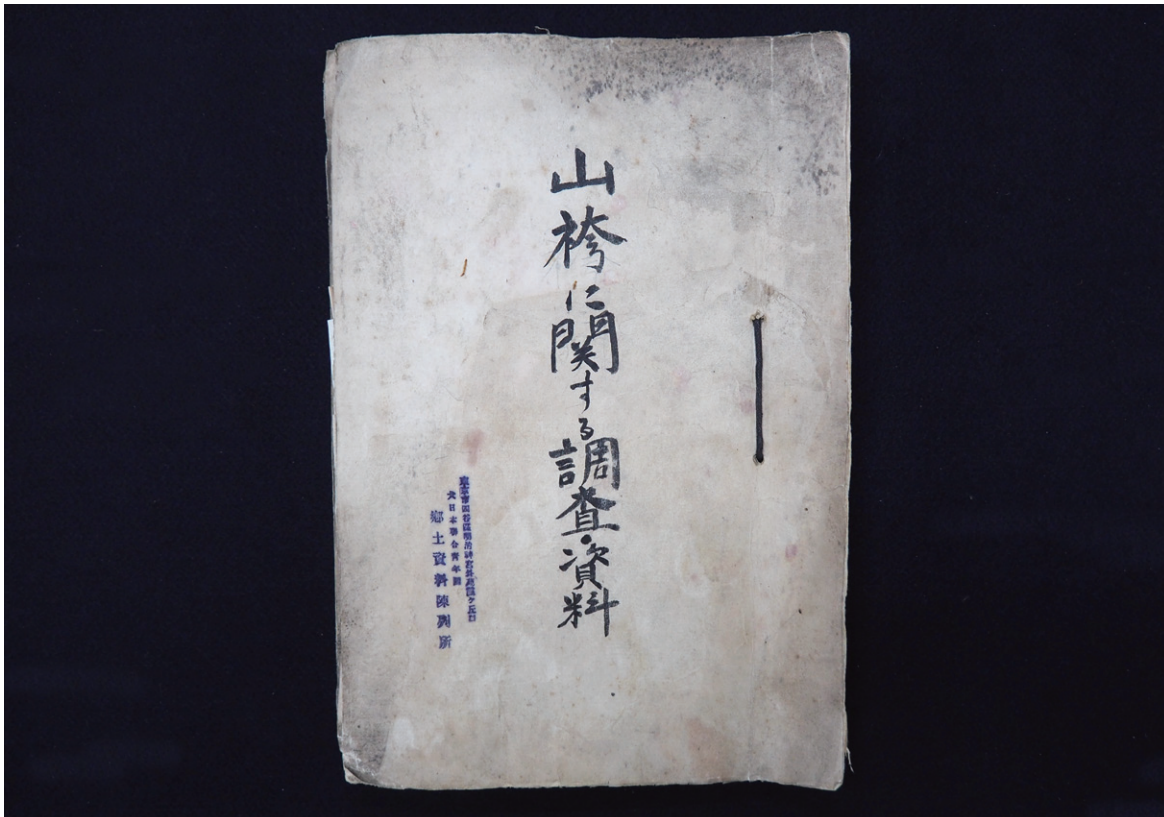


写真1 山袴に関する調査資料（日本常民文化研究所蔵）



写真2 日本青年館および大日本連合青年団の民俗学関連出版物

◆共同研究（奨励）「宮城県気仙沼大島における遠洋漁業の歴史の変遷に関する研究
——震災救出資料を中心として——」

研究・成果報告期間：2016年4月1日～2019年3月31日 代表者：千葉勝衛



写真1 第5回共同研究フォーラム「気仙沼大島における遠洋漁業の歴史——漁船員たちの航路をたどって——」
パネルディスカッション（2019年2月10日）



写真2 発表「大島の漁船員達の航路をたどって——その歴史と変遷について——」代表者 千葉勝衛

「海洋都市横浜 うみ博 2018」

期間 2018年7月21日(土)～7月22日(日)

会場 横浜港 大さん橋ホール神奈川大学ブース

海洋都市横浜うみ博協議会主催の「海洋都市横浜 うみ博 2018」に、「順風満帆 千石船」として本研究所所蔵の和船模型3点、中国船模型1点を展出し、ワークショップを開催した(報告文34ページ参照)。



写真1 2018年度は和船模型3点、中国船模型1点を展示

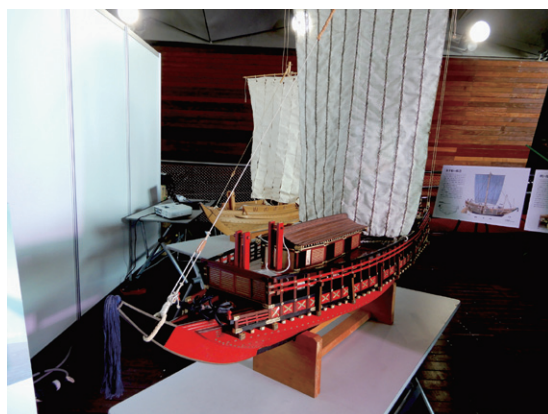


写真2 今回は新たに御座船(20分の1)模型を展示



写真3 五大力船。海から川や堀割に入れるように船の深さを浅くしている



写真4 菱垣廻船の帆の上げ下ろしを実際に体験



写真5 展示ブースでは院生のスタッフと子どもたちが折り紙で帆掛け船を制作



写真6 ワークショップでは帆掛け船の解説と折り紙で作った船を水に浮かべ走らせた

収蔵資料「小絵馬」

期間 2018年3月28日(水)～10月4日(木)

会場 神奈川大学横浜キャンパス3号館1階展示ホール 神奈川大学日本常民文化研究所展示室

干支・祭礼・願掛けなどが図柄で描かれた約2,000点の「羽田勇人小絵馬コレクション」より、企画展の和船展示に関連した「船絵馬」、庶民の願いが描かれた小絵馬を展示した(報告文36ページ参照)。



写真1 船絵馬(模造品)



写真2 へちま水(美女祈願)



写真3 杯に錠(禁酒・禁賭)



写真4 鯰(皮膚病平癒)



写真5 両手(機械技術の向上・手の病治癒)



写真6 蛸(イボの除去・眼病治癒)

収蔵資料「小さな和船模型」

期間 2018年10月5日（金）～2019年3月13日（水）

会場 神奈川大学横浜キャンパス3号館1階展示ホール 神奈川大学日本常民文化研究所展示室

和船模型作りで現代の名工に選ばれた近藤友一郎氏の作品から、伝馬船、川船、ペーロン船など小型船を中心に展示した。それらは独自の調査を基に船型を忠実に再現している（報告文38ページ参照）。



写真1 天竜川の渡し船



写真2 富士川の渡し船



写真3 仁淀川の川船



写真4 伝馬船



写真5 ペーロン船（手前から明治時代・大正時代・昭和時代）



写真6 勢子船（鯨船）